



第 6 号  
2004. 7. 10  
新 潟 大 学 会  
理 学 部 同 窓 会

### ミクロからマクロへ



同窓会長  
中山 輝也

が記憶に残っています。「その通り」と自分を納得させながらも何とか卒業することが出来ました。そのときのクラス幹事が物理学科に在籍されていました長谷川彰学長でした。

ご存知のとおり、私共が学んだ理学部は昭和二十四年に西大畑町の旧制新潟高等学校跡に設立されました。その後の昭和四十年代の学園紛争期から五十嵐に移転を含めて同じ学び舎、そして同じ恩師について学んだ理学部同窓生は今では六一六六人にも及びます。

私ごとですが、昭和三十一年の入学、そして三十五年の卒業で数えて八回生ということになります。教養部の頃は、旧制高校からの転入された方のほかドッペリ組なども若干残っていました。こういう人達は私達新入生を子供扱いしながらも結構親切に付き合っていました。専門課程に進み、数学、物理、化学、生物そして地質鉱物の五学科が古い木造校舎の別棟で学んでいたことを昨日のこのように思い出します。

勿論、優秀な方も沢山いましたが、そういう人達には失礼ですが、当時私の専攻した地質鉱物学は出来が悪いらしく、教養部のガイダンスで地質鉱物学学科の杉山隆二教授が「君たちは理学部の掃き溜めである」とはっきり言われたの

専門課程に入ってから、特別な共通の講義がない限り、他学科の人達とは顔は合いませんでした。ことはほとんどありませんでした。当時のその環境が卒業時からはそれぞれ学科の同窓会へと自然に引き継がれたのでしょうか。それでも平成に入ってから理学部同窓会として連合する気運が高まり会合を何回も持ちましたが、さすがに理論家が多く堂々めぐりを重ねたように思います。その会合は新潟大学の会議室、そして昭和と大橋もとの教職員共済組合の「新潟会館」を利用しました。

学部同窓会の結成に一番熱心だった化学の二回生、渡辺昌吾さんが会長に選ばれました。渡辺会長の下に学科を問わずまとまることが出来たのも束の間、他界されました。お悔やみに新潟市の斎場まで出向きましたが、突然の出来事であり唯々、ご霊前で焼香するだけでした。

その後しばらくして、渡辺会長の出身学科である化学科の幹事、とくに逢坂勝也さんを中心に後任を決める下準備の各学科協議を

行いました。そして今後の理学部同窓会のあり方など基本的な検討も行われました。大きな学科である数学科、物理学科などから先輩達を選ぶのが当然で、私もそれに賛成した一人でしたが、その先輩達の中に「理学部の出身者は大先輩達を含め教員が多いので、独立行政法人化を目前に数少ないが企業人からではどうか」という提案であり、御鉢が廻って来ました。当然、固辞しましたが、先輩達の勧めでやむを得ず引き受けました。それから数年経ちました今でも適任でないと思っています。

昨年末から独立行政法人化を目指して、学科をまとめた学部同窓会ではなく全学同窓会結成の気運が出来てきました。何回か全学部の代表や世話役が集まり協議を重ね、全学部の同窓会合意のもと、全学同窓会を目指すための全学同窓会連絡協議会が設立され、四月十七日には設立祝賀会が開催されました。新潟大学も四月一日から長期間続いたいわゆる官立から国立大学法人に衣替えしました。

これから各学科や学部の同窓会できめ細やかな交流や活動は、従来通り大切なことですが、時勢に合うよう全学同窓会の設立を目指すことが大切だと思いますし、理学部同窓会が新潟大学を支える一助となる事が出来れば幸いです。思います。



### 国立大学法人新潟大学の 発足にあたり 理学部同窓会の皆様へ



新潟大学長  
長谷川 彰

今から五年前の一九九九年に新潟大学は創立五十周年を迎え、盛大な記念式典が挙行されたことは記憶に新しいところです。私は一九六十年に理学部物理学科を卒業しました。地質鉱物学（現在の地質科学科）を卒業された理学部同窓会長中山輝也氏と同期です。

当時の理学部は、その前身である旧制新潟高校の校舎を使用しており、人文学部、教育学部（現在の教育人間科学部）、六花寮などとともに、西大畑地区にありました。私たちが卒業してから約十年後、一度決定された五十嵐地区への統合移転が白紙撤回され、その後あらためて決定し直されるなど、教職員と学生が大変苦勞した経緯が「新潟大学二十五周年史」に詳しく記されています。この困難な局面を乗り越えたことが新潟大学にとって大きな転機となり、その後の飛躍的な発展の礎となりました。新潟大学は名実ともに日本海側地域における教育研究の中心的存在となり、その存在感を高めてきました。

二〇〇四年四月一日、国立大学法人新潟大学が発足しました。新潟大学にとって、統合移転に次ぐ大きな出来事です。皆様ご承知のように、国立大学の法人化は、少子化の進行、高等教育の大眾化、経済活動の停滞、科学技術

の進歩等々の社会的情勢の変化を背景に行われましたが、競争的環境がつけられていく中で、活力に富む個性豊かな大学づくりを目指した改革です。このたびの法人化を機に、あらためて新潟大学では、自律と創生を理念とし、教育と研究を通じて地域や世界の着実な発展に貢献する意思を固め、新しい大学づくりに取り組んできました。

主なる新しい取り組みは、現代社会の要請に応えた大学院実務法学研究科、大学院保健学研究科、歯学部口腔生命福祉学設置等の教育組織の充実、抜本的な教育課程の見直しの中での副専攻制度の導入、新しい研究分野の開拓を支援する超域研究機構の設置、知的財産の創出、保護、活用のための知的財産本部の設置、生涯学習などの拠点としての新潟駅南キャンパスの開設等々です。これらの営為を着実に軌道に乗せ、法人化の目的を達成したいと思っています。

これまで新潟大学は、真理の探究を志す人々、新しい知識や技術の修得を切望する人々を受け入れ、未来を見据えた教育と研究を行ってきました。今後はさらに教育課程を精選するとともに、複眼的な思考を培う課題別及び分野別副専攻制度を定着させ、意欲ある学生に発展的な学習の機会を提供するなど、自らの力で時代の課題を解決し、二十一世紀をたくましく生き抜く人材の育成を目指したいと思います。

わが国は、科学技術の振興により産業や経済の隆盛を目指すことを基本的な政策としています。言うまでもなく、技術の発展を支えて

いるのは基礎科学であり、長期的な展望のもとで、基礎科学と応用科学の均衡のとれた発展を図っていくことは、国や世界の持続的な発展を支えるために、とりわけ重要なことであると考えています。そのため新潟大学においては、基礎研究分野、応用研究分野を問わず、特色ある研究、世界に卓越した先端的研究、長期的視野に立つ価値ある研究、本学の地域性に立脚した研究などを重要視し、また若手研究者を支援する姿勢を明確に打ち出しています。

社会に開かれた大学づくりの環境として、地方自治体、独立行政法人や企業と連携することにより、寄附講座や連携講座をはじめとする様々な共同事業が推進されています。先端医療や応用科学の分野における地域社会との共同事業は今後一層盛んになると予測されますが、基礎科学を地域社会との連携のもとで発展させていくという斬新な構想も提案されており、新潟大学の個性をより豊かにするためにも、そのような構想の実現に向けて力を注いでいきたいと考えています。

理学部卒業生の皆様には、皆様が大学で学ばれた学問の面白さや研究の中で新しい発見に遭遇したときの感動を、一般市民の人々、特に若い世代の人々に伝えることを、ぜひ心がけていただきたいと思えます。難解な専門用語や数式を用いることなく、わかりやすい言葉で説明することは必ずしも容易なことではありませんが、基礎科学の面白さや大切さが広く理解される状況の中でこそ、基礎科学は

着実に発展をとげていくものであります。

競争と評価の時代を迎え、大学をとりまく状況がますます厳しくなる中で、このたび全学の同窓会が一体となり、新潟大学を応援してくださるという基本的な方針が決まり、誠に心強い限りです。理学部同窓会の皆様におかれましても、忌憚のないご意見やご助言を賜りますとともに、新潟大学を力強くご支援くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

## 国立大学法人新潟大学と理学部の現状



理学部長  
増田 芳男

この四月から国立大学法人新潟大学がスタートし、我が新潟大学は創設以来最大の転機を迎えることになりました。このような中、新潟大学では大学が総合的な機能を十分果たす体制を整えるため、教員の定員管理を一元化することになりました。全学の教員は人文社会・教育科学系、自然科学系、医歯学系の三つの学系から構成される教育研究院に所属し、そこからそれぞれの学部及び大学院に向って教育を担うことになり、研究活動は三つの学系の下に置かれる、いくつかの系列で行うことになりました。

教員の定員管理の一元化は、十八歳人口の減少、行財政改革による人員削減等のスリム化が避けられない状況で、教育研究の機能

を維持、強化するために採られた措置で、教員を三つの系に大きく括ることによって、学内に一五〇人の流動化定員を生みだし、大学全体の共通基盤施設等の強化充実を図ることと表裏一体の関係にあります。

教育面では、五十嵐キャンパスの七学部で開講する全ての授業科目に分野名(系統名)と水準を示すコードをつける「分野・水準表示法(ベンチマークシステム)」が導入されました。このことは、総合大学である新潟大学の特徴を生かし、各学部の授業科目の多くを全学に開放するという画期的な試みで、「副専攻制度」導入の基礎となるものです。従来、教養教育は専門の基礎をアラカルト的に履修することをノルマとして実施され、改革の必要性が指摘されてきました。副専攻制は、自分の専攻分野の学習に加え、それ以外の分野を系統的に学び、所定の単位数を修得した学生には副専攻の認証を与えるという、新しい教養教育のモデルでもあります。

このような全学の動きを受け、理学部では副専攻制度と連動し、系統性を備えたわかりやすい教育課程の再編に力を注ぐとともに、全学から求められる自然系共通専門基礎科目の企画・立案・実施の責任母体としての役割を果たすべく、努力しているところです。教育改革と連動して、優秀な学生を受け入れるための広報活動や、学生の出口としての進路指導の強化も重要な課題です。また、新しい制度の下では、評価が大きな意味を持つこととなります。基礎科学

である理学は、自然の真理を追究する文化的活動であり、未来の科学技術の源泉となる新しい発見を通じて社会に貢献する学問であって、短期的な効率評価にはなじまない学問です。とはいえ、中期目標・中期計画の達成状況を自ら評価する機能を強化する必要があります。

理学部の教育目標は、理学に期待される二つの役割、即ち「純粋科学としての知的興味の追求」と「社会的問題解決」に貢献できる人材の育成であり、中期計画は「基礎科学を継承してその発展を担う人材、また、基礎科学を生かして産業や教育の分野で地域社会や世界に貢献できる人材を育成する」ことです。この目標・計画の達成状況は、卒業生が実際のどのような分野で活躍しているかによって検証されることになり、同窓会の皆様には、理学部と連携して同窓生が活躍する情報の提供をお願いする場面が多くなると思えますので、よろしく御願ひ申し上げます。

以上の重要課題と取り組むために、「教育」、「広報」、「進路指導」及び「評価」を担当する理学部長を新たに選任し、努力しているところです。

交流協定を結んでいるハンガリーのデブレツェン大学原子核研究所が創立五十周年を迎えることになり、三月に理学部からお祝いとして桜の苗木を三十本奇贈しました。将来、教育改革の成果がこれらの桜とともに美しい花を咲かせることを夢見て、教職員一同努力を続けております。

するとともに、皆様の暖かいご支援をお願い申し上げます。ご挨拶いたします。

### 全学同窓会 連絡協議会について

全学同窓会連絡協議会運営員  
石橋 輝樹

一、全学同窓会連絡協議会設立の経緯と目的

新潟大学卒業生組織は、昭和二十四年に新制大学として発足以来今日まで、新制大学に統合された旧組織の同窓会を母体として、各学部単位で組織、運営されてきました。

因みに、当理学部同窓会は、平成二年に学科別同窓会から漸く各学科同窓会連合組織として設立されました。

平成十六年四月から、我が国の諸改革路線に則る国立大学法人化が実施され、母校・新潟大学も厳しい大学間競争に晒されることとなりました。我が母校も象牙の塔から脱却し、より社会に開かれた、地域社会と共に発展する大学へと変身しようとしております。

法人化後の新潟大学運営組織は、学長の下、「経営協議会」、「役員会」、「教育研究評議会」が設けられます。同窓会代表は、経営協議会への参画が要請されております。したがって、この度、母校の大学法人化を契機に八学部同窓会が結集、全学同窓会を立ち上げるために全学同窓会連絡協議会(以下、「連絡協議会」と言う)を設け、全学同窓会設立にかかる様々な課題を協議、検討しながら、併行し

て様々な面から強力で母校を支援する運びとなった次第です。

一方、連絡協議会の設立は、学部を越えた同窓生間のさらなる親睦、連携、交流を深め、さらに同窓生と在学生、教職員との関係の緊密化を高めることにより母校を活性化し、新潟大学ブランド確立促進に向けた大きな効果も期待される所です。

## 二、連絡協議会設立までのあらまし

昨秋、大学からの要請を受けて、柳本会長（人文・法・経同窓会）から各学部同窓会長に全学同窓会設立に向けた呼びかけがなされ、平成十五年十月六日全学部同窓会長が一堂に会し、全学同窓会設立を目的とする各学部同窓会間の協議機関である「全学同窓会連絡協議会」の平成十六年四月立ち上げ、並びにそのための準備会設置が協議され、満場一致で合意されました。準備会では、連絡協議会設立にかかる基本的諸事項について精力的に検討を進め、同封の「新潟大学全学同窓会連絡協議会広報」（以下「広報」と言う）記載の通り、平成十六年四月一日に発足、四月十七日に新潟市ホテルイタリヤ軒で第一回理事会が開催され、併せて長谷川学長はじめ大学トップを来賓にお招きした祝賀会が盛大に挙行されたところです。

〔参考〕連絡協議会の平成十六年度事業のあらまし

(1) 予算総額…五、五四〇千円

(財源) 賦課金二四〇千円、

分担金五、〇〇〇千円、協賛金三〇〇千円)

(注) 賦課金…各学部同窓会

一律(三万円)、各学部分

担金…平成十五年度入学生比率による分担額、協賛金…全学同窓会設立に協賛される方々からの拠出金

(注2) 各学部分担金比率

(人・法・経…三十三・六%、理学…八・三%、工

学…二十一・一%、農学…

六・八%、医学…四・二

%、歯学…二・二%、教

育…十六・七%、保健…

七・〇%)

(2) 主な事業…別紙「広報紙」記

載の通りですが、本年度は発

足初年度のため広報紙の発行、

ホームページの開設、十月

三十日の新大祭に合せた「新

潟大学全学講演会」後、ホテ

ル新潟における「全学同窓会

交流会」を開催いたします。

振るってご参加下さい。

## 三、理学部同窓会の対応経過と今後の方向付け

理学部同窓会では、中山会長を中心に幹事学科の地質科学科同窓会石橋、渡部が準備会、並びにワーキンググループに参加、対応いたしました。この全学同窓会設立の動きは、平成十五年十二月八日に役員会を開催、状況を報告し全学同窓会設立への基本的合意を得ました。その後の準備会における検討状況等は、各学科幹事会(平成十六年一月九日、二月十八日)を適宜開催し、逐次了承を得ながら検討を進め、平成十六年三月三十日の役員会において最終的な了承を得て、全学同窓会連絡協議会に構成員としての理学部同窓会参加が決定されました。

この度の全学同窓会設立に向け

ての動きから、当理学部同窓会は他学部 비해 組織、財政力等が格段に弱体であり、今後、活発な活動を行うためには、抜本的な改革を要することが喫緊の課題となりました。

したがって、別項記載の通り、平成十六年八月二十八日に臨時総会を開催し財政基盤の強化、抜本的な会則や組織の改正等について、会員に諮ることとなった次第です。

## 各学科の近況

数学科…本年三月で卒業回数五十二回を数え、数学科卒業生は一三〇五人の多きに達し、各分野で重要な役割を果たしており、高い評価と信頼を得ております。

数学科同窓会においては卒業生名簿を五年おきに発刊することにしており、前回は平成十一年に発刊されて以来五年経過し、今年に名簿発刊の年になりました。また、本年度は本学にとって独立法人化に伴い国立大学法人新潟大学として新たにスタートしたその節目の年でもあります。

そこで、昨年来本学同窓会の理事、幹事の方々の多大な協力、尽力のもと名簿発行に向けて準備作業を重ね、本年三月にようやく発行することが出来ました。この度の独立法人化により本学には全学同窓会連絡協議会が設置され、二年後の全学同窓会発足に向け準備、検討がなされており、本学同窓会も理学部同窓会の一支部としてその運営に連携、協力してゆくことになりました。そのためにも今回の名簿発行は有意義なことであったと思われま。尚、昭和四十年に理学研究科修士課程が設置され、大学院重点化のもと現在の理学部、工学部、農学部を基礎学部とする自

然科学研究科(前期、後期課程)に改組拡充されました。この間、本学科関係の修了生も数百人規模となり、また他大学出身の修了生もかなりの人数に達しております。そこで大学院修了生に対する同窓会のような組織の設置について、本学同窓会との関連を考慮しながら検討することが必要となつてまいりました。この問題は本学同窓会における今後の検討課題となると思われま。

物理学科…二〇〇二年のノーベル物理学賞は小柴昌俊氏のカミオカンデでのニュートリノ研究に与えられました。この研究の協力者の一人だったのが物理学科の宮野和政教授(二〇〇三年三月退官)でした。氏によるカミオカンデでのニュートリノ研究の簡単な報告が理学部発行の冊子「理学部は今」第八号(二〇〇二年十二月発行)に掲載されています。

二〇〇〇年に新潟大学大学院自然科学研究科の物質生産棟にヘリウム液化機(リンデ・TCF-50、液化能力二〇〇L/時)と液体ヘリウム貯槽(内容積二、二〇〇L)が配備されました。この装置を用いた超低温物理学の研究・教育が急速で推進発展することが期待されます。

二〇〇二年の夏に駒野氏ら十名の三期生の方々が物質生産棟を訪問して下さいまして新装なった建物の中を見学して貰いました。

法人化後、大学も地域のために役立つという思いから地域連携医療・科学研究教育センター構想に一口絡み、その実現化に向けて協力・準備中です。以下最近開催した国際研究会等を紹介しておきます。

二〇〇二年春と秋に交流協定を結んでいるオランダデルフト工科大学と「Computational Physicsの研究交流」を新潟とデルフトで各々開催。

二〇〇三年十一月に黒川村の研修所で「新時代の原子核構造物理学」を開催。

二〇〇三年十二月に物質生産棟で「宇宙物理に関する日本-イタリアセミナー」を開催。

二〇〇四年三月に朱鷺メッセで「ニュートリノの国際ワークショップ」を開催。

化学科…平成十六年四月から新潟大学は独立行政法人化され、また、少子化の影響を受け、大学は研究だけでなく、学生の教育にこれまで以上に力を入れなければならない時代となりました。入学試験を工夫し、いかにして優秀な学生を集め、よい教育をして社会に送り出すことが大学の重要な使命となりました。現在の化学科の入学定員は三十五名で、内訳は前期が二十五名、後期が五名、推薦が五名となっています。このほか二、三次編入試験があり、毎年二、三名の学生が高専、短大、他大学から化学科に入学しています。化学科の教員は現在十八名で、講義、実験、セミナー等を通して学生が理解しやすいように工夫して教育に当たっています。

この二年間の化学科の人事異動は、生化学の小俣三郎先生が平成十五年三月末で定年退職され、平成十五年十月には有機化学の山田英治先生が着任されました。また、技官の松田義明(旧姓高橋義明)さんが平成十六年三月末に定年退職されましたが、あと二年間は化学科の仕事を続けていただくことになりました。

この二年間の化学科卒業生の進路状況は、大学院への進学者が四年生の六十、六十五%、就職希望者の企業・公務員等への就職率は八十、八十五%、その他が十%となっています。世の中の景気がまだ回復せず厳しい就職環境ですが、学生のみならずが頑張ってくれています。

生物学科…西門から入ってベンチャービジネスラボラトリーの左手の奥に七階建ての自然科学研究科の生命・環境棟が新築され、古くなった理学

部校舎のC棟の改修が予定されていることから、理学部と自然科学研究科の生物系の教員十一名(理学部C棟の二つの研究室を残して)が、生命・環境棟の三階と七階に昨年引越しました。理学部の改修が済めば、素晴らしい夕日や新潟の夜景、そして黒松の高い枝の果でヒナを育てるカラスを上から観察できる七階と理学部C棟の研究室は、C棟二階に移る予定です。

生物学科の学生定員は二十名で変わりませんが、入試は前期・後期日程、推薦として三次編入と多様化が進んでいます。ベンチマークシステムの導入など教育改善のための様々な改革が進んでいますが、学科のカリキュラムも再編され、必修科目が増えました。四年生の課題研究(卒論)も必修になり、課題研究にける意気込みが変わったように見受けられます。就職活動への支援体制が強化され、活動の早期化が進んでいますが、四年生の五十%以上が大学院への進学を希望し、この傾向はさらに強くなるように思われます。

最近の生物学科の人事異動は、古橋勝久先生、森和博先生、そして長島純子さんが退職されました。新たに着任された方は、アサガオの開花機構の和田清俊先生、植物細胞への物理的刺激に対する受容と応答の電気生理学の菊山宗弘先生、タンパク質合成系の機能解析の内海利男先生で、事務担当は池田恵美子さんです。  
**地質科学科(地質鉱物学科)**…地質科学科では、教育改革の一環として、次のような課題に取り組んでいます。教育プログラムのJABBE(日本技術者教育認定機構)認定を目指して、カリキュラムの改革に取り組んでおります。JABBEに認定されますと、その教育プログラムを所定の成績で卒業した学生に「技術士二次試験免除」、つまり、技術士補相当の資格が与えられます。

さらに、技術者継続教育にも適合するプログラムの提供を目指してカリキュラムの改革に取り組んでおります。島津光夫名誉教授は本年春の叙勲で「瑞宝中綬章」を授賞され、五月十二日には東京での授賞式典に出席されました。五月二十八日、万代シバルホテルにて、新潟在住の教員を中心に祝う会が開催されました。茅原先生もご出席されました。新潟地震の年に着任されて以降、島津先生はいろいろの面で貢献されてこられましたから「新潟と東北」の著を出版されました。

教員の異動は、平成十三年四月に栗田裕司助教が着任されました。前職は石油資源開発(株)技術研究所の主任研究員でした。層位・古生物学が専門です。また、平成十四年三月をもちまして小林巖雄教授が定年退官されました(奉職期間・昭和四十三年五月十六日/平成十四年三月三十一日)。約三十四年間にわたって、地質鉱物学科・地質科学科の研究・教育を支えてこられました。現在は名誉教授となられ、一般向けの講演会や巡検など、地学の普及活動にも熱心に取り組まれております。

平成十三年二月十一日に開催された理学部同窓会総会において、地質鉱物学科同窓会長の中山輝也氏が理学部同窓会長に選出されました。これに伴って、これまでの慣例に従い、会長出身学科である地質鉱物学科同窓会が理学部同窓会の事務局を担当することとなり、今日に至っております。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

**自然環境科学科**…二〇〇三年に本学科は創立十周年を迎えました。そこで、当学科と同窓会(創環会)との共催で、十月十一日(午後三時より、新潟市ウェルンシティにて、記念式典・講演会・懇親会を開催しました。一、第一部記念式典は当学科樫田昭

次教授の司会で進められ、山岸宏光学科長と山田光子同窓会長のあいさつのもと、来賓挨拶として、学長代理伊藤忠雄学長特別補佐、増田芳男理学部長、漆山佳雄新潟県保健環境科学研究所所長、遠藤幸雄東北電力東新潟火力発電所副理事長がそれぞれ祝辞を述べられました。なお、挨拶は時間の都合で省略いただきましたが、五百川清大河津信濃川資料館長、周藤賢治副学部長、他学科の学科長、佐藤一栄理学部事務長が司会者から紹介がありました。その後、当学科の濱口哲教授より、当学科の設立経緯と略史が説明されました。

二、第二部の講演会は当学科臼井聡助教の司会で、最初に、新潟県保健環境科学研究所情報調査科長福崎紀夫氏より、「自然環境科学科と酸性雨研究センターとの共同研究」と題して、研究所の研究内容について当学科との関連で紹介されました。ついで、(財)環境地質科学研究所理事長中山輝也氏より、「未来創造に向けての技術者と経営者」と題して、二十一世紀を生きる若者に期待することなどを各自の経験にもとづいて話されました。

三、第三部の懇親会では、学科長と同窓会会長の挨拶のあと、当学科OBの吉村尚久名誉教授のあいさつのもと、学科設立に尽力した池田清美元理学部長のメッセージが披露されました。さらに、OBの石澤進元教授の音頭で乾杯し、和やかな歓談が始まりました。歓談後、卒業生の近況報告や現役学生の自主ゼミ活動の紹介がありました。最後に、全員で万歳三唱して終わりました。なお、式典には約百名、その後の懇親会には一三三名が参加しました。

### 理学部同窓会総会のご案内

日時/平成十六年八月二十八日(日)  
午後四時三十分より(受付:午後四時より)

場所/ホテル日航新潟 朱鷺A(四階)  
新潟市万代島五一 TEL025-240-1888(代)

会費/8,000円(会費には懇親会費を含みます。)  
会費は当日徴収させていただきます。

申込/左記の担当者にFAX、電話またはE-mailで八月二十日までにお申し込み下さい。当日受付も行います。

数学/関川 電話:025-262-6126  
Fax:025-262-6120  
E-mail:sekigawa@sc.nigata-u.ac.jp

物理/新潟大学理学部物理学科同窓会(庶務係西沢気付)  
電話:025-262-6102  
Fax:025-262-6116

化学/工藤 電話:025-262-6171  
Fax:025-262-6171  
E-mail:hkudo@sc.nigata-u.ac.jp

生物/新潟大学理学部生物学科同窓会(生物学科事務室池田気付)  
同封のハガキでお申し込み下さい。  
お問い合わせは左記E-mailへ。  
E-mail:shinz-eki@zb4.so-net.ne.jp

地質/渡部 電話:025-262-7058  
Fax:025-262-7058  
E-mail:jbanken@cc.nigata-u.ac.jp

環境/山田 電話:025-262-7058  
E-mail:mitsuko-y@roy.hi-ho.ne.jp

議題/会則の改正変更 他  
総会後、鳳凰(三十階)にて懇親会を行います。

### 各学科同窓会総会のご案内

理学部同窓会総会に先立ち、各学科同窓会(同科会)総会が左記の通り開催されます。

尚、自然環境科学科は十月に総会を予定しておりますので、今回は幹事会とさせていただきます。

日時/平成十六年八月二十八日(日)  
午後三時より(受付:午後二時三十分より)

場所/ホテル日航新潟  
新潟市万代島五一 TEL025-240-1888

数学/会場:孔雀A(三階) 物理/会場:孔雀B(三階)  
化学/会場:鳳凰(三十階) 生物/会場:孔雀C(三階)

地質/会場:孔雀D(三階) 環境/会場:レストラン桃季(三階)  
会費/なし

申込/理学部同窓会総会と同様、各学科の担当者にお申し込み下さい。